

地域づくりセミナー 第2回

「人口が減っても元気なまちでありつづけるために」

～「まちの将来像と夢を持ったまちづくり」～

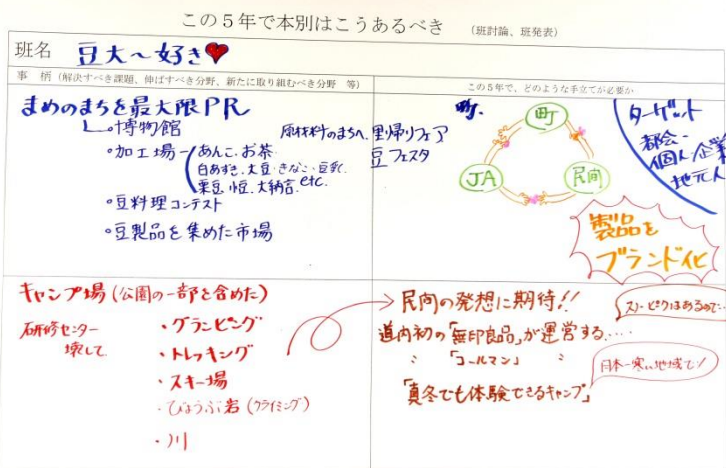
令和元年11月6日（水）18:00～21:00

本別町体育館2階中競技室

『豆大～好き♡』班の討議発表（発表者：山岡 裕幸）

メンバー

寺島 康博
井出 直美
飛田 真喜子
山岡 裕幸

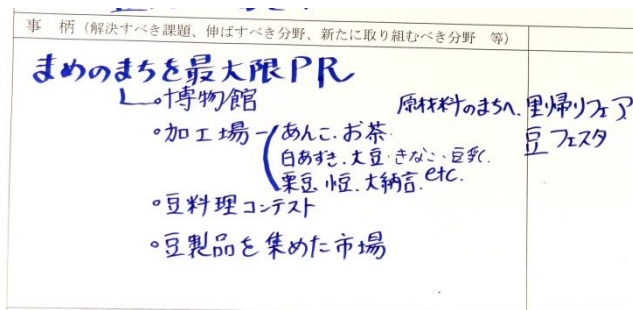


山岡：『豆大～好き♡』班の5年後の本別はこうあるべきを発表させていただきます。

当班では、2つ意見を出した。

豆大好きチームなので、やっぱり、本別町はまめのまちを最大限にPRして、豆のことが何でも分かる博物館を建てたり、せっかく豆を生産しているので、地元での豆の加工場を造り、生産したものを本州で人気のあるお店やお土産屋さんに置いてもらうという話をした。

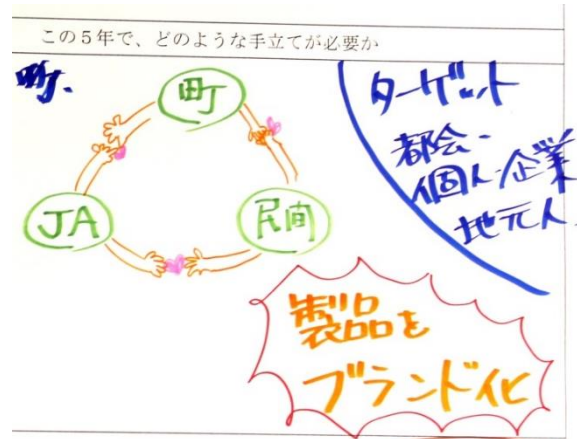
豆でも種類はいろいろあるが、それをそのまま本州に出荷するのはもったいないので、加工場を建てて製品化して販売したほうが効率が良いのではないかと話が出た。PRとして、「日本一の豆料理コンテスト」を開催する。それから、豆製品を集めた市場なんかを作った方がよいのではないかと案も出た。



もうひとつは、加工して出荷された製品を、原料の町で「里帰りフェア」を開催し、関係交流・対人交流を増やしていったらどうかという話。道産製品を売る関係各所を招いて本別町へ「里帰りフェア」をやっていただくという話をした。

そのためには、やっぱり町とJAと民間がしっかりタッグを組んで製品化していかなければならない。

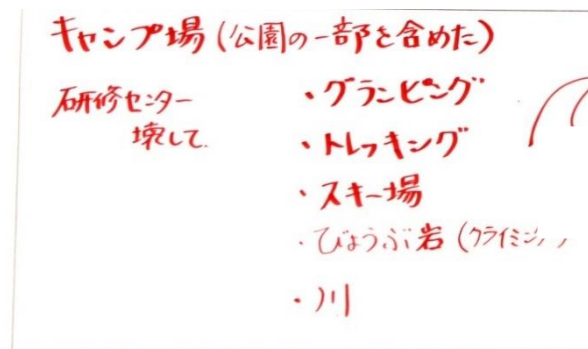
さらに製品のブランド化・付加価値を高めていかなければならないという話をした。



講師のお話でもあったように、北海道への関心が高い関西圏・中京圏など、西日本のほうでは豆がたくさん売れるようなので、そのあたりをターゲットにしていけばいいのではないかという話だった。

キャンプ場について

キャンプ場といってもただのキャンプ場ではなくて、公園の一部を含めていろいろ展開してみてもどうかという話をした。



公園の近くのパークゴルフ場だとか、静山研修センターを壊してグランピングゾーンにするその近くの義経山それから神居山の近くなどにトレッキングゾーンを造ったりするとウケが良いのではないかという話だった。

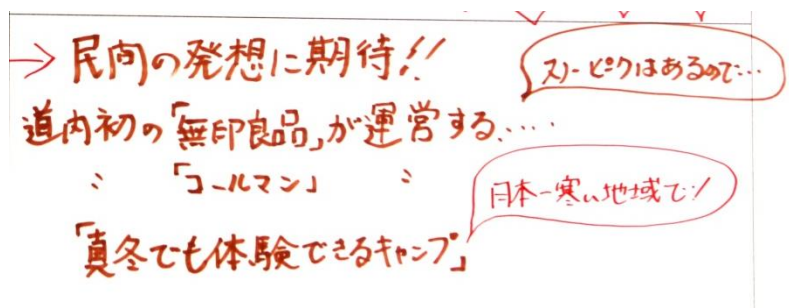
スキー場もその中に含めて造っていくと良いのではないかという話もあった。

第2キャンプ場についても、本別のグランドキャニオンといわれている『びょうぶ岩』をクライミングのステージにすることなども考えられるという話をした。

その手立てについて、前回も話したが、直営じゃなくても民間の発想にも任せたい。

無印良品という食料品とか日用品など世界中で販売している会社が現在キャンプ場を運営しているが、まだ日本全国3カ所しかない。

北海道初の無印良品が運営するキャンプ場だとか、はたまたキャンプ用品ブランドのコールマンに話を持ちかけて運営に携わってもらうとか、直営じゃなくても民間の発想に期待してやっていけたらなと思っている。



真冬でもできるキャンプ場として集客を見込めないか。『日本一寒い町』は陸別町なので、『日本一寒い地域』で真冬でもできるキャンプ場としてやっていけたらと思った。

上記を実施するにあたり**制度上や法的な規制**、また、**アドバイス**はありますか？

現段階での法的な規制は特に無いようです。事業実施の細部事項が決まってくれば、届出等必要な事項は出てくると思います。

『ALL本別』 班の討議発表（発表者：田西 真由美）

メンバー

橋本 文子
井出 壬午
田西 真由美
鈴木 譲



この5年で本別はこうあるべき (班討議、班発表)	
事柄 (解決すべき課題、伸ばすべき分野、新たに取り組むべき分野 等)	この5年で、どのような手立てが必要か
空家を活用した、子供から高齢者が集える場所を提供。 「そこに行けばワクワク」	・どんなことが出来る場所なのかの発信。 ・空家 ・ちょっとした家具
移動販売 「移動販売車が来る日はワクワク」	・商店街の方などが力を合わせて協力。 自転車 ・販売の許可

田西：私たちの班は今日のメンバーに村上慈恩くんがいないので、発想がとてもアナログになってしまった。

その中でも、2つ発表させていただく。

「そこに行けばワクワク」

本別の街には空き家が結構ある。その空き家を活用した子どもから高齢者が集える場所を提供したい。

その場所で何をするのかというと、本別の良さを子どもたちの中でも知らないことが多いので、その場所に行けば高齢者から本別のことについてお話を聞いたり、子育て中のお母さんだったら、「こういうことで困ったことがあるんだよね」という悩みを高齢者の方や地域の方に聞いてもらえる場所があるといいなと思った。

事柄 (解決すべき課題、伸ばすべき分野、新たに取り組むべき分野 等)
・空家を活用した、子供から高齢者が集える場所を提供。 「そこに行けばワクワク」

その場所では、「今日は〇〇するよー」ではなく、いろんな人が集まれる場所にしたい。

編み物を教えたり、折り紙をして自然と子ども達とコミュニケーションが取れる場所がいかなと思っている。

高齢者の方も、ただ家にいるだけじゃなく、そこに行けば小さい子と話が出来たりして昔の話をする事によって脳が活性化されて、認知症などを予防することに繋がっていくのではないかなと思った。

まずそれには、そこがどんなことをできる場所なのかを発信していくのが必要なのと、みんなが集まれる場所ということで、耐震がしっかりしている空き家の整備と、ちょっとした家具、座布団とか茶ダンスとか、みんなでお茶でも楽しめるようなものがあつたらいいかなと思う。

この5年で、どのような手立てが必要か

- ・どんなことが出来る場所なのかの発信
- ・空き家
- ・ちょっとした家具

「移動販売車が来る日はワクワク」

前回も話をしたが、高齢者の方にも子育て中の方も買い物に行けない時があると思われる。高齢で免許を返納した人たちなどのために、「移動販売車が来る日はワクワク」。

「今日はどんなものを持ってくるのかなー？」などと想像できて買い物をするのが楽しくなりそう。

お弁当とかも移動販売の中にあつたらいいかなという意見もあった。

あと、商店街の方たちが力を合わせて協力したり、移動販売に興味のある方が協力してくれるととても助かるが、その手立てとして、協力とか、車の準備、販売の許可を得るように整えていく必要があると思う。

移動販売

「移動販売車が来る日は
ワクワク」

- ・商店街の方などが力を合わせて協力
- 配車
- ・販売の許可

この班の発表に対しての質問・意見

北谷：本別には居住支援協議会があつて、そこで空き家対策を行っている。

本別は全戸で300以上の空き家があつて使える家はほとんど無いようで、使えないものについては出来るだけ壊していく、いいものは使っていこうという取り組みを行っている。

この話（空き家についての話）が出ているから、協力して進めていけば良いのではないかなと思う。

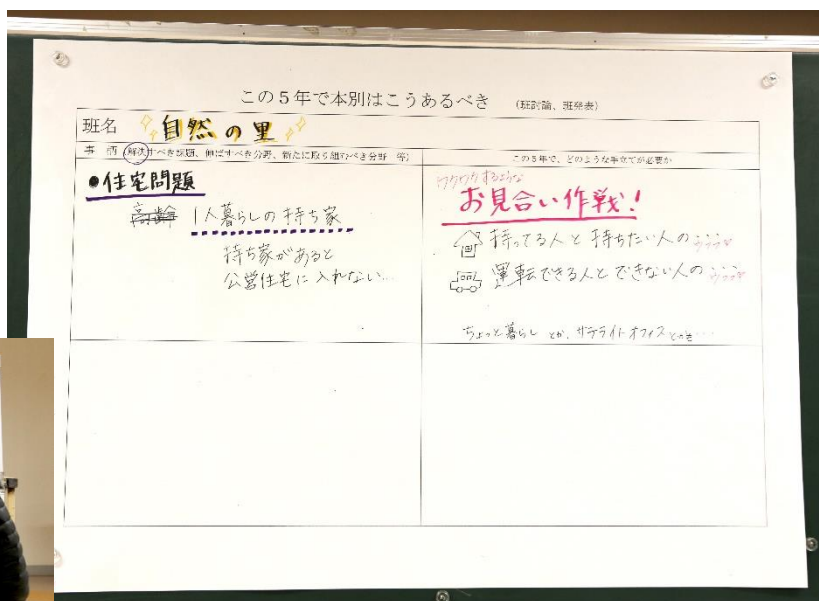
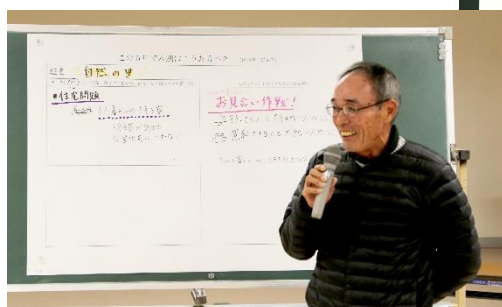
上記を実施するにあたり制度上や法的な規制、また、アドバイスはありますか？

・移動販売では管轄保健所からの許可が車に対して行われます。食品移動自動車の場合はあらかじめ包装されていることが必要で、温めたり、盛り付けることはできません。また、移動販売車は8ナンバーの交付を受ける必要があります。そして、道路上で販売を行う場合は警察署から道路使用許可を取得する必要があります。食品衛生責任者の資格も必要です。（販売部門と製造部門が分かれている場合はそれぞれに配置）

『自然の里』班の討議発表（発表者：本間 正義）

メンバー

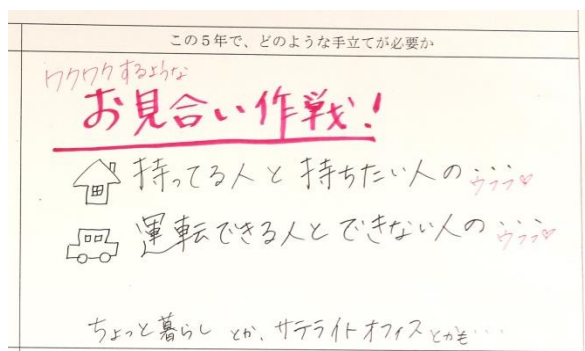
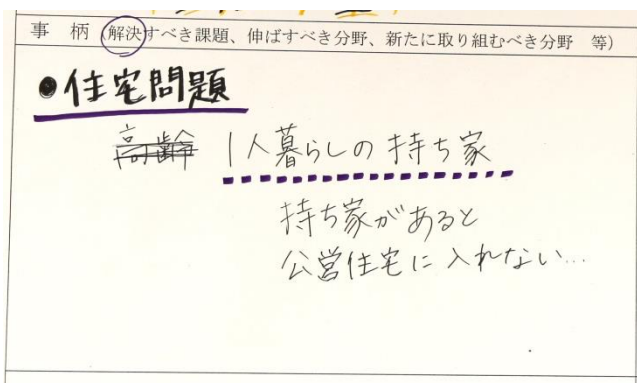
山下 知子
本間 正義
藤川 一三
門田 浩史
林 恵里那



本間：話の中でいろいろな意見が出た。みなさんそれぞれ課題を抱えている方が多いので、意見がいろいろ出た。高齢者の立場から意見をいえば、今問題だと思うのが、いわゆる「住宅問題」なのではないかという話が出た。

「住宅問題」とは一体何なのかというと、私たちは今、2人で夫婦で暮らしているからまだいいが、これが1人になると、今の持ち家の中では1人では生活していけないし、1人で住んでいたら広すぎる、家の中で迷ってしまうという問題が起きるかもしれない。

そこで、持ち家がある人は公営住宅に入れないか？という疑問が出た。現在の法律で決まっているのかは分からないが、持ち家の人は全体的に公営住宅に入れない。これを何とかしてもらえないだろうか。そこで出たのが、「ワクワクするようなお見合い作戦！」。家を持っている人と持ちたい人のマッチングの場を作る。法律なども絡んでくる。細かいことは法律に詳しい人に聞いてみないと分からないが、持ち家がある人は優先順位で公営住宅に入れないとなると、こういうことは可能なのではないか。それで、家を持ちた



い人に今の家に住んでもらう。そうすると家賃収入はどうしても入ってくるので、どうしたらいいかという話にもなった。

でも、どこかでこういう問題を早くに解決していかないとダメだと。私も足腰が弱ってきているので、多分今の一軒家では一人で住めそうにないと思う。誰かに介護してもらわないといけないと思っている。それまでには、なるべく間仕切りの無い、せめて2LDKくらいの家に入って暮らしていけたらベストだと思う。

先程の班の発表で買い物の話が出た。やはり買い物は車を持ってる人・持っていない人、運転が出来る人・出来ない人に分けられる。これは大きな話だが、いわゆる買い物難民を救うためには、やはり街の真ん中に大きな施設を建設し、そこに入居してもらおう。買い物は、そ

上記を実施するにあたり**制度上や法的な規制**、また、**アドバイス**はありますか？

・公営住宅施行令では入居者資格として一定所得金額以下の人や住宅に困窮している人が入居できることとなっています。また、住宅があっても、保安上危険もしくは衛生上有害な状況にある等の場合は入居基準に該当するとされ、良質な住宅を保有している場合は現在のところ公営住宅の入居要件に該当しません。

『本別大好き』班の討議発表（発表者：新津 直子）

メンバー

新津 直子
北谷 和雄
風間 進
大橋 堅次
栗原 浩司



この5年で本別はこうあるべき（班討議、班発表）	
事項（解決すべき課題、伸ばすべき分野、新たに取組むべき分野等）	この5年で、どのような事が必要か
①若者が少ない ②発信力不足 ①今ある資源を活用していく （農業・農大・高速道路・本別公園） 気候	・御所の活用（企業の研修など） ・本別を拠点として観光・レクリエーションの提供 ・本別公園の充実（遊具・イベント） ・英語教育の充実（幼児から） ・高速道路（企業・産業の誘致） ・空き家を活用したショートステイ
①生産年齢人口が増えやすいような街づくり ②若者の流出を止める ③関係人口を増やす	・本別農業のブランド化 ・SNSの活用 ・企業訪問など

新津：まずは、解決すべき課題ということで、配布された資料を見て、生産年齢層の人口比率がとても少ないと感じる。特に女性が少ないのがショックを受けた。あと、発信力不足。せつかく良いものがあるのに、PR不足であまり知られていないんじゃないかということから、伸ばすべき部分や今後の取り組みやこの先どうしていったらいいか話し合いを進めた。

①若者が少ない
②発信力不足

伸ばすべき分野として、今ある資源を大いに活用していこうということで、魅力のある所は沢山あると思う。例えば、農業について、農大があるのにもっと活用していこうとか、高速道路も将来的には、北見・釧路とも繋がっていくとインターチェンジとしての機能も発揮できる恵まれた立地にある。あと、本別公園という素晴らしい公園があって、誰にでも自慢できる公園だと思うし、気候がとても良くて、災害が少ない、日照時間も長いということでそういうところも大いに活用していきたいと思った。

①今ある資源を活用していく
（農業・農大・高速道路・本別公園）
気候

新たに取組むべき分野ということで、生産年齢人口の比率が少ないので、住みやすい町づくりを進める。若者たちがアンケートの結果の中で出て行きたいという比率がすごく多かった。その理由が、働くところが無いとか、楽しい所が無い、買い物をすると場所が無いとの意見があったので、そういったことを少しずつ解決して定着できるような取り組みを。人口減少はどうすることもできないことなのかもしれないけれども、せめて生産年齢人口は流

出しない方法を、若者の流出を止めるように取り組むべきだろうと。

他の班の発表でもあったように関係人口を増やすということで、今後の人の流出が減っていけば、今後どのようなことをしていくべきか、今までこの問題だとか見直すべき分野を話した。具体的な

①生産年齢人口が住みやすいような街づくり

②若者の流出を止める

③関係人口を増やす

例として御所の活用、例えば企業の研修先としての利用。過去には北糖の全国研修なども本別で行っていたそう。そのときにいろいろ活用していたということなので、御所などを活用して企業の方などの研修時などに観光だとかリフレッシュの場を提供する。本別だけにとどまらず、実際、本別を拠点としてキャンプ場だとかを利用して長期滞在して全道各地を観光する方もいるので、そういった拠点としての利用も出来たらと思った。

本別公園に限らず、小さい子どもが楽しめる環境が少ないという意見がたくさんあったようなので、本別公園の遊具なども小さな子どもたちでももっと楽しめる、小さな子どもがいる＝親たちも集まってくことで、関係人口を増やせるのではないかな。

御所の活用(企業の研修など)

本別を拠点として観光(リ)フレッシュの場の提供

本別公園の充実(遊具・イベント)

英語教育の充実(幼児から)サマーキャンプなど

高速道路(企業・産業の誘致)

空き家を利用したショートステイ

イベントについて。例えば、自分の娘の話でコスプレをするのが好きで、コスプレのイベントのためなら全国どこでも行ったらいい。それで、本別公園でコスプレの撮影会なんてやったら最高だよねと言っていた。そこで「撮影会をすれば良いでしょ」と話をしたら、「恥ずかしいでしょ」という話だった。でも大々的にPRするならば本当に全国どんなところからでも来るようである。そんなふうにPRをしていくことでいろんな年齢層、いろんなジャンルの人が集まれる場所になればいいなと思った。

教育について。これからは、英語が必須になってくるのかなと思っている。幼児からこども園などに幼児の英語教諭がいたらいいなという意見もあった。他にも英語だけのサマーキャンプなんて大々的にPRをして本別公園で何日間かサマーキャンプをしたら、いろんな人が集まってくれるんじゃないかなと。あと、他の班でも出ていたように空き家を利用したショートステイなど、リフレッシュの場などとして使えていたらと思う。

農大について。農大ではいろいろなものがブランド化されてきている。先日見学させて頂いたが、校内では同じハウス内でトマトを時期をずらして栽培していたり、メロンの環境を変化させて栽培していたりとたくさん研究もしている。でも、それが本別にとってはあまり根付いていない気がする。せっかく他町村から来ていたり、非農業者の方も来ていて、女性の学生も多いと聞いている。その方たちが本別で使っていない畑を利用してどんどん研究をしてもらって、研

・本別農業のブランド化

・SNSの活用

・企業訪問など

修などで本別に残っていただいて本別の農業をもっと活性化してもらえるようできたら。また、農大の生徒だけに頼るのではなくて、こちらからも発信をしていろいろ協力出来たらなと。

発信力不足ということで、SNSの活用などで、広くPR出来たらなと思う。企業の研修などという意見もありましたが、関西だとか中京圏の方が興味を持っていたいと聞いているので、どんどんPRをして本別をもっと知っていただけるようになればということで話を進めていった。

上記を実施するにあたり**制度上や法的な規制、また、アドバイス**はありますか？

・空家を利用したショートステイは住宅宿泊事業法により北海道への届け出が必要になると思われます。これは一定の基準を満たす住宅について、届け出手続きを行うことで民泊営業を認めるものです。

講師の講評（講師：大山 慎介 氏）

大山氏：とても勉強させていただいた。かなり論点が集約されてきた。アンケート結果についても全て見させていただいた。この結果と今回の発表が共通していたことをふまえて、皆さんが注目しておいていただきたいと思う点を紹介します。

先程の持ち家と家を持ちたい人の話について。十何年前にJTI「一般財団法人 移住・住み替え支援機構」（マイホーム借上げ制度）というのが東京都内にできた。内容は、子育て世帯の家と持ち家がある高齢者夫婦とをマッチングすることを国土交通省が基金を積んで民間が行うという制度。

これにより、子育て世帯は大きい家（高齢者夫婦の持ち家）に住み、高齢者夫婦はマンションなど（子育て世帯が住んでいた家）に住めるようになる。これも参考にしていきたい。

家賃の70%を保障し、高齢者夫婦は家を貸すようになるので、家賃収入を得ることになる。JTIの制度は、その子育て世帯が北海道に住みたいとなったら、全国にネットワークがあり、空き家リストを活用して北海道で住宅を探して住むことも可能となっている。先程の公営住宅を借りる話で、自分の住んでいた住宅を賃貸できるのかという課題もある。公営住宅を普通財産にして賃貸することができないのか。建設時の補助金との整理が必要。

住宅については、集合住宅やアパートなども活用も視野に入れる。本州では、持ち家を貸す場合の家賃を念頭に、その金額を活用して、北海道内で一時期マンションやアパートを借りられないかと考えている方もいるので、そうした方々も視野に入れてみてはどうか？

発表では、発信力の不足が何度も話題に出た。里帰りフェアの話しや交流人口の話も出た。1から創り上げていくことはとても大変なこと。「豆の町、本別」をずっと言い続けて、マスメディアやSNSを積極的に活用し、最後には『あの』本別となる。このように町の認知度を上げていくことはとても大変。企業訪問も、他団体とコラボしながら何度も繰り返して、「あの本別町」、「あの」がつくまで頑張ることが重要。これらのことは徹底的にやったほうが良い。膨大な広告費をかけずとも、北海道ファンが聴く、観る既存メディアを活用する等、節約しながらの方法がある。

これからは、どの取り組みを進める場合でも、発信力が重要なポイント。

そして、各グループの発表を総合的に見ていくと、今日のキーワードは、住宅問題、空き家、豆、本別公園など。

多世代で交流すると子育て世帯も高齢者も色々な立場の人が集う。このままでは若者が更に出ていくので、魅力のあるまちづくりをしていく。



何度も出てきたのが本別公園。その活用方法として、豪華なキャンプ場、英語サマーキャンプの話もあった。そして、本別の豆の6次産業の話や付加価値を高める提案も出た。

多世代で交流すると子育て世帯もいろんなことが学べて嬉しい→「ワクワクする暮らし」へつながっていく。空き家を交流する場として活用することによって一人暮らしの高齢者世帯や若者の交流の場が増えていく。社会課題となっている孤独死とか、中高年のひきこもりなどの対応策としての一助になる。

こうした活動により若者の目からも、うちの町って「なんだかすごいやさしい」「たのしそう」と鋭い感性に耐え得るようになる。そして、社会問題、福祉課題の空家、若者定住などと総合的につながる。

移動販売車も話題に出た。その場合、「おすそわけ」「食品ロス」を考えると、食品を通常より安く購入し、売ることができないかとの視点も考察すべき。若い人はお金がかからないで楽しかったら本別に残る可能性が高まる。

こうした諸点を考えて行くと働く場所の創出につながっていく。

つまり、本別公園で何か実施するときに誰が担うのか、移動販売も誰が？と考えると、担い手が必要になってくる。若者を含めた新たな雇用の場が期待できる。6次産業化もそう。これらを集めていって、新しい企業体をつつという手段も一考すべき。

この企業体。つまり個々の事案別に見ていくと、空家の問題、高齢者対策、ひきこもり対策、孤独死対策、コミュニケーションの維持、そして買い物対策等々、それぞれ異なって見えるが、かなりの部分が輻輳している。ICTの活用で更に連携が深まる。この結果、こうした社会課題・地域振興策を担う人たちが必要になる。そして雇用の場が生まれる。

高齢者は、このプロセスで新たに働く方に自分の家を貸す。貸した家賃の収益の一部を「ワクワク基金」みたいな所に提供して、商店街が赤字になるようであれば皆でシェアする。お金のうごきと人の見守り、安心感を一緒につくっていくという視点も、全体の満足度、納得度のためには一考すべきか。

そして、人の流れも考えたい。

子育て環境を前面に出す。今後の認定子ども園の入園者減少対策にも繋がる。

つまり、3年、数年という一定期間、札幌や本州大都市部の子育て中の方が滞在・住むという発想。需要は大きい。この場合、企業との相談体制も重要になる。受け地側としては、テレワークやサテライトオフィス環境の整備が必要。

さらに、今まで課題で出てきたものを繋いでいく。

サマーキャンプで来た人に年賀状を出す。子どもの時の記憶は貴重。成人になったら豆を送って交流を図ったりすると町の名前も、豆自体も広く知ってもらえるかもしれない。こうした諸点を、時系列と分野ごとに並べてみる。すると、人とお金の流れを少しずつでも生ま

れていく。本別公園や豆、高速道路などの資源は豊富なので、個がつながっていく潜在力がある。

「豆のまち」として真面目に取り組む、という本別は、「まめなまち」でワクワクするまち。

地元の方が楽しく暮らしている所に人が関心を寄せるもの。その延長線上で、資金確保にも繋がる。

まずは、町民が、こんなまちにしたい。

「こんな本別はどうですか？」

とPRできることが重要。

企業からのふるさと納税の制度改正の動向にも注目し、企業が応援したいとなるようめざす。

企業が動けば、その企業に勤める社員家族とのご縁も深まり、滞留人口の増加に繋がる。



次回は、本日、提案された個々の想い、取り組み手法をさらに磨いていく。

最初から大規模でなくても、まずは、想いをカタチに。実際にやってみること。1個の成功例から、「思っていたこと、言っていたことはこのことなんだ」と繋げる。

次回、「みなさんのプロジェクト概要」をまちづくりの提案にしていきたいと思います。そして、1つの事業を実施していけるようにしたいと思う。